

首都圏や関東地方などの雪の少ない地域で暮らす人々にとって、雪は年に多くても数回程度の珍しいものです。

めったに降らない雪に、子供たちは雪だるまを作ったり雪合戦^{ゆきがっせん}をしたりと、とても喜びます。大人たちはわずかな雪にも道で転びそうになったり、慣れない雪かきに悪戦苦闘します。同じ雪でも大人と子供では、受け止め方が随分違うようです。

一方、雪国では厳しい寒さを迎える前に、暖房の準備をしたり、雪囲い^{かこ}をして冬仕度を整えます。雪が降りはじめれば、自宅や会社での雪かきや、車に乗るときは事前にエンジンをかけて、窓の雪を溶かして準備をするなど雪とともに暮らす毎日が始まります。

雪国の冬の暮らしはとても大変なことでしょう。しかし、雪国には雪国でしか味わえないこともあるのかもしれない。

辺り一面雪景色になった快晴の朝の景色は、まるで銀世界の美しさでしょう。

また、長く厳しい冬を乗り越えてこそ味わうことのできる、ようやく迎える春の喜びがあるでしょう。

曹洞宗の大本山永平寺は、北陸の福井県吉田郡永平寺町にあります。冬はとても寒さの厳しい雪深いところです。

道元さまは、その寒さの中での雪でさえも、自然の息づかいと感じられていたようです。その雪を詠^{うた}った道元さまの和歌があります。

わが庵^{いお}は 越^{こし}の白^{しら}山^{やま} 冬^{ふゆ}籠^{ごも}り 氷^{こおり}も雪も 雲^{うく}か^いかりけり

・・・さらには・・・

暇^{ひま}もなく 雪はふりけり 谷^{たに}深^{ふか}み 春^{はる}きにけりと 鶯^{うぐいす}ぞなく

どちらも、永平寺における厳しい寒さの中で、降り続く雪を、まるで大自然からの贈り物のように、ごく自然に受け止められている心が感じとれます。

雪の中での厳しい寒さを乗り越えるからこそ、迎える春の喜びが大きくなるように、厳しい修行を乗り越えてこそ、心の豊かさに出会えるのでしょう。

— 終 —